

ももたろう基金【第4次助成】 事業実施報告書

実施事業	真備の高齢者セーフティネット ぶどうの家の拠点を維持しよう！
実施者名	三喜株式会社（小規模多機能ホームぶどうの家真備）
助成金額	300万円
受益者数	直接受益者 70名（間接受益者 400名）

※イベント実施や複数回実施事業は別紙で各回の人数等、対象者数のわかる資料を添付ください。

実施した事業の内容・成果

<実施内容>

地域拠点としても活用できる、仮設事業所の整備

事業所が被災してしまったため、被災直後から避難所でも事業を継続して行っていたが、避難場所が公民館だったため、仮の拠点としての長期使用ができないという問題があった。

仮の拠点さえあれば、被災した利用者、家族が自宅に帰られるまでの居場所と、自宅で暮らし続けている利用者、家族に今まで通りの支援を受けることが出来る。高齢者とその家族が真備で暮し続ける為に、途切れないように支援を継続させるために仮設事業所が必要だと考えた。

さらに私たちの事業所が、高齢者のセーフティネットとしてのみではなく、地域住民の安心・安全・つながりという重要な機能を持っているという観点からも、仮設事業所が出来れば、以前のように地域へ開かれた場所として活動することができる。地域の方々のコミュニティーや復興支援の場としても活用していくことで、「真備で暮らしたい」という人々の拠点にもなると考えた。

以上のことから、被災した倉庫を再び小規模多機能ホームとして使用できるようにリフォームし、台所や風呂場を新たに設置した。

<成果>

被災し一緒に過ごしている5人の利用者の方々は、避難所での生活では成しえなかった生活ができるようになった。台所があることで家事ができるようになり、お風呂が出来たことで、避難所のとこと違い、自宅に近い生活ができるようになった。また自宅から通って来られる利用者にたいしても、自立に向けた支援がより充実したものになった。この施設の整備によって、介護度が軽減した利用者が3名ある。

職員も“自分達の事業所”という意識ができたことでモチベーションが上がり、利用者やご家族、地域への関わりも平常になった。職員達の意識が高まったことで、自施設を活用した地域への取り組みも積極的になり、支援団体やボランティアの方々と共同で炊き出しや支援物資の配布の場として提供したり、保育園の園児や未就学児の親御さんと利用者の交流の場を作った。風呂の無料開放を行い、現在も自宅をリフォーム中の方が定期的に利用されている。

また“これからの真備で暮らし続けるために”と題して、建築や防災、他県の被災地で活躍された役所職員等を招いて、「住まいについて考える」勉強会を3月までに3回開催した。毎回10数名の住民の方々が参加され、今後の真備での暮らし方についての話し合いの場が持てた。

3月から、ももたろうの介護保険事業所は箭田で再開できたので、今回整備した建物は地域の方が自由に利用できる、地域交流スペースとして活用している。定期的なサロンや支援の活動の場所や、地域への情報発信の拠点としての活動が加速しつつある。

活動の様子（写真などを添付してください）



通ってこられている利用者の様子



ボランティア「読み聞かせの会」の様子



利用者達が調理をしている様子



「住まいについて」の勉強会の様子



地域の方々との「クリスマス会」の様子



「支援物資の配布」の様子

決算報告（※原則として領収書の写しを添付いただきます。）

今回実施した事業の決算内容は下記の通りです。

		費目	金額（円）
収入の部	/	ももたろう基金助成金	3,000,000
		収入合計	3,000,000

		費目	算出根拠	金額（円）	
支出の部	①当プログラム助成金 対象費目 当プログラム助成金（このプログラムで集めた寄付金）を充てる費目	辻田ホール改修工事		3,000,000	
			小計		3,000,000
②その他費目 当プログラム助成金（このプログラムで集めた寄付金）を充てない費目					
		小計		0	

寄付者へのメッセージ

菌公民館で避難生活を続けていました。いつまでもそうすることもできない状況の中様々な物件をあたりましたが、行き詰まっていた。仕方なく風呂もトイレもない建物に行くしかない諦めつつ、その決心がつかないでいました。

そんな時にももたろう基金に支援していただき、辻田の空き倉庫をリフォームしていただき、ここに移ることができました。風呂やキッチンをつけていただいたので、介護保険利用の高齢者は生き活きと、まるで水を得た魚のように元気になっています。そして同じ被災者として地域の方とともにこの建物を活用する取り組みができるようになりました。地域の方にもぶどうの家 BURANCH として認識していただきつつあります。「こんな所があるのを知らなかった。もっと早く知っておけばよかった」「ここで、みんなと話をすること、一緒に作業することが楽しみ」と言われる方も出てきました。また、「これまでたくさんの方のお世話になって元気が出たので、これからは自分が人のために役立ちたい」とボランティアをしに来てくださる方もあります。

事業所としての建物は箭田に再建できました。今後はこの建物をますます地域の方のためのものになるような活動ができると張り切っています。災害というあつてはならない辛く苦しい出来事でしたが、みなさまに支えていただき、ここまで乗り切ることができました。そして BRANCH という拠点もできました。今後は皆さまへの恩返しができるよう、精一杯のことをしていきます。本当にありがとうございました。

今後の活動

地域の方の小さな拠点となる（4月の予定を下記カレンダーに示した。）

【ぶどうの家主催】

生活に合わせた支援・・・お風呂の無料開放、物資配布

コミュニケーションのきっかけのために・・・毎週のサロン活動とそのほかの集まり

楽しみやリラックスのために・・・映画や音楽鑑賞会を月に6回程度

復興に向けての取り組み・・・真備の暮らしを考える勉強会を月に1回程度

【その他団体などの主催】

研修会、マッサージや整体、炊き出し、サロン等の会場として利用・・・月に4回から8回程度

【その他】住民の方が気軽に立ち寄り、おしゃべりをしていく場所

5/1	メイクしよう	5/16	
2		17	兵庫県から炊き出しとレクリエーション
3		18	味噌汁とご飯を食べよう・福祉介護職員の心理ケア
4	味噌汁とご飯を食べよう	19	縫物をしよう
5	臨床心理アート	20	
6		21	ちらしずしを作ろう
7	柔軟剤を作ろう	22	映画観賞会
8		23	映画観賞会
9		24	映画観賞会
10		25	味噌汁とご飯を食べよう・映画観賞会
11	味噌汁とご飯を食べよう	26	子供とこいのぼりを作ろう・足もみ・映画観賞会
12	クリニカルアート・福祉職研修会	27	映画観賞会
13	ハワイアン	28	
14	暮らしの勉強会	29	
15		30	ハーバリウムを作ろう